



はじめのいっぽ

平成29年度
2月号

平成30年1月31日
幼保連携型認定こども園
東野田ちどり保育園
江川 永里子

2018年が明け、早一ヶ月が過ぎようとしています。

1月27日（土）に博多入りさせて頂き、研修受講して来ました。

「教育とは心のコップを立てる事」

- しつけ
躰
- ①両親への挨拶
 - ②「はい!」という返事
 - ③脱いだ靴を揃える



「人の短所しか見えない人は成長が止まっている人である」など…教育と人間力について学ぶ機会がありました。世界の王 貞治さん（ソフトバンク取締役会長）とも懇親会でご一緒させて頂きました。

「偉人」はオーラが美しい…と感動の博多の夜でした。

職員会議でしっかりと共有し、今年度の締めくくりの時期を力一杯充実させて頂きます。



～アドラーより～

賞の望ましくない効果

1. 賞を目的に行動するようになる

たとえば子どもがテストでいい点をとってきたとしましょう。親がこの子をほめてあげたり、あるいは賞にか買ってあげたりすると、どんなことがおこるでしょう。子どもは次のテストでもいい点をとろうと、がんばって勉強するようになるかもしれませんが、しかし、このとき子どもは、勉強して賢くなることよりも、賞をもらうことを目的に行動するようになっています。これでは、勉強することの必要性をいつまでたっても子どもは理解できませんし、勉強する楽しさに目覚めることもありません。

2. 賞をもらえないとわかると、適切な行動をしない

子どもが賞を目的に行動するようになると、賞をくれる人がいないとか、いても賞をくれないことがはっきりわかっているとすると、適切な行動をやめてしまいます。

また、「ごほうびをくれたらするけど、くれないのならない」と、賞を駆け引きの材料に使うようになるかもしれません。

3. 賞が次第にエスカレートする

3歳の子どもはアメ玉1個でも喜ぶかもしれませんが、高校生になるとバイクでも賞にしないと行動しなくなるかもしれません。

4. 結果ばかり重視するようになる

結果がよければ賞がもらえるわけですから、子どもは「結果さえよければいいんだ」と思うようになり、安易な手段、あるいは反社会的な手段で、結果だけ手に入れようとするようになるかもしれません。

「ごほうびをもらうためには、手段は選ばないぞ」と思うようになるのです。

5. はじめからあきらめてしまうかもしれない

あるいは、結果が悪そうだと予測すると、「どうせごほうびはもらえないんだから」と、はじめから投げ出して手をつけないかもしれません。